

2022年6月30日

関西電力株式会社

取締役代表執行役社長 森 望 様

(一般社団法人) 北海道自然保護協会

会長 在田 一則

札幌市白石区本通1丁目南2-38

TEL : 011-876-8546

貴社が計画されている(仮称)伊達・千歳ウィンドファーム事業の計画段階環境配慮書に対し当協会の意見を以下のように申し上げます。

ご検討くださるようお願い申し上げます。

(仮称)伊達・千歳ウィンドファーム事業に係る計画段階環境配慮書に対する意見

1. 総論：この計画は撤退すべきである

事業実施想定区域(以下、想定区域)は、わが国の生物多様性の保全、すなわち自然保護の上で重要な地域であることから、そこに風力発電事業を計画すること自体、根本的な間違いであり、この計画は撤退すべきである。

この計画は、下記の想定区域に最大発電出力7.98万kW(単機定格出力4,200~6,100kW級風力発電設備最大19基)のウィンドファームを建設する予定である。想定区域は、支笏洞爺国立公園における支笏・定山溪・登別地域の西側境界線(千歳市・白老町と伊達市の境界)に当たる南北方向の稜線部に設定され、稜線の長さ約15km、総面積約1,072haに及んでいる。想定区域の北半は稜線の東側にある国立公園(第3種特別地域と普通地域)を含んでおり、南半は稜線で東側の国立公園(第2種特別地域)に接している。問題は、稜線の西側が公園外であろうとも、稜線部に建設される風車群による生物多様性への大きな悪影響が生じると危惧されることである。

想定区域はまた、ほとんどが「北海道鳥獣保護区」または「生物多様性保全の鍵となる重要な地域(KBA)」であり、ほとんどが「重要野鳥生息地(IBA)」である。また、想定区域のすべてが「国有林の保安林(水源かん養保安林)」に設定されている。これらのことは、想定区域がわが国が定める「自然保護地域」であることを示し、風力発電事業の設置地域として根本的に想定・計画してはいけない地域と判断する。

2. 各論1：植物には、全国的に極めて重要な種が多い

「想定区域内に主な生育環境が存在し、その一部が改変される可能性がある」とした植物の重要な種として、以下が挙げられている(第4.3.3-2表と第4.3.3-7表)。これらの植物目録には、わが国の植物分布上、極めて重要な新知見となる植物が多い。

以下に主なものを列記するが、このことは、想定区域の植物相が極めて高い価値を有していることを示し、風力発電事業を想定してはいけない重要な保護地域であることを示している。

北海道に未記録、本州以南に自生する植物：シデコブシ、コバノヒルムシロ、ササバモ、ヒロハノアマナ、カノコユリ、コナギ、ナガエミクリ、チュウゼンジスゲ、イワスゲ、ハナトリカブト、ヤマトリカブト、キクバオウレン、チョウセンヒメツゲ、ヒュウガミズキ。トサミズキ、シロヤマブキ、キツタ、マツバニンジン、アサマフウロ、ハクチョウゲ、ヤブヨモギなど多数。

北海道で産地が限定され、想定区域付近に知られてこなかった植物：ミズスギ、フサスギナ、タカネハナワラビ、リシリシノブ、トガクシデンダ、キタダケデンダ、オクマワラビ、ゲジゲジシダ、ミヤマウラボシ、マツブサ、マルバオモダカ、ヒメホテイラン、テガタチドリ、ムカゴソウ、エゾイヌノヒゲ、ミヤマホソコウガイゼキショウ、アポイタヌキラン、ヒメアゼスゲ、ケカモノハシ、キタミフクジュソウ、キンロバイ、エゾトウチソウ、アポイタチツボスミレ、アポイシモツケ、カトウハコベ、レブンコザクラ、サクラソウ、イチゲイチャクソウ、チシマセンブリ、バシクルモン、エゾルリソウ、シラゲキクバクワガタ、エゾミヤマクワガタ、ムシトリスミレ、ユウバリシャジン、ピレオギク、コハマギク、フタマタタンポポ、ウスユキトウヒレン、ユウバリタンポポ、ホソバトウキなど多数（高山植物を含む多数の希少植物が挙げられている）。

3. 各論 2：植生の自然度が高く、高山植物群落が成立している

想定区域の植生自然度は、国立公園の内外を問わず、10か9と示されている。植生自然度10は、高山植物群落や自然草原など森林以外の自然な植物群落を指し、同9は森林の中で最も自然状態が残された植物群落を指す。そのため、想定区域の植生自然度は、最高値の自然状態にあることを示している。

このことは、別の面では、長流川、千歳川、白老川の各源流域にある水源かん養保安林としての機能を発揮させ、支笏湖とその下流にある千歳市民、また伊達市民や白老町民の生活環境を支えている。自然環境および生活環境の上から、これらの源流域は大切に維持しなければならない。

想定区域中部にある白老岳(標高 968m、山頂とその東側は国立公園)とその南西に近接する山岳(944.6m峰、国立公園外)は、急峻な地形を呈し、植生図ではハイマツ低木林(コケモモ-ハイマツ群集)や自然裸地などに覆われると示されている。これらの山域をグーグルマップで見ると、ハイマツ低木林が確認され、植生図の「自然裸地」が崩壊砂礫地群落または雪崩地草原、あるいはチシマザサ群落に該当し、植生自然度10の「自然草原」に当たると判断される。この山域はとくに急峻な地形を呈するので、事業実施による攪乱が土砂流出など新たな災害を引き起こすことが危惧される。

したがって、想定区域は、わが国の自然環境と生活環境の保全上、重要な自然に覆われており、それを破壊する事業は中止すべきである。

4. 各論 3：動物，特に鳥類に対する重大な影響の懸念

(1) 第 4.3.2-13 表 (p230) における鳥類の主な生息環境について、オジロワシやオオワシは水辺 (湿地等)・水域とされているが、これは餌場としての利用環境であり、営巣や峙などでは樹林帯を利用することから樹林のカテゴリーにも含まれるべきである。同様に、水辺 (湿地等)・水域に区分されているタンチョウは草地や牧草地も利用し、樹林に区分されているシマフクロウは河川 (水域) を主な餌場として利用する。それ以外にも、複数の環境を利用する種があり、これらの種についてはその生息環境区分を検討しなおすことと、複数の環境の改変や風車建設による影響について検討して記載する必要がある。

また、シロフクロウやシマアオジの主な生息環境は水辺 (湿地等)・水域とはいえない。その他の種についても見直して適切な区分に改善するとともに、その区分での影響を再度評価する必要がある。

(2) 本事業予定地は、注目すべき生息地として挙げられている支笏湖鳥獣保護区を含み、またほとんどが K B A や I B A 内である。これらの地域は、希少な鳥類を含む多くの生物の重要な生息地であり、その区域内はもちろん隣接地も環境改変や風車の設置を行うべき場所ではない。

(3) 第 3.1.5-3 図 (p63) は想定区域が希少猛禽類であるイヌワシやクマタカの生息地と重複し、また第 3.1.5-4 図 (p61)、第 3.1.5-3 図 (p62) は想定区域が猛禽類や夜間にわたる鳥類の渡り移動経路となっている可能性が高いことを示している。想定区域は自然度の高い森林植生が優占しており、クマゲラを含むキツツキ類やフクロウ類などの樹洞営巣性鳥類種も多く営巣していることが推測される。また、渡り・越冬期に支笏湖と洞爺湖間を移動するオジロワシやオオワシのほか、ガン類やハクチョウ類の飛行経路になっている可能性も高い。当地における風力発電施設の建設は、これらの非常に多くの鳥類種の生息環境の悪化や消失、バードストライクなどを引き起こす可能性が極めて高く、この地の環境改変や風車建設は、想定区域以外の K B A や I B A 区域内の生物多様性を低下させる可能性も指摘され得る。

(4) 想定区域がこれらの重要な生息地に位置しながらも、ホロホロ湿原や緑の回廊 (支笏・洞爺) には位置しないことを理由として、配慮書において本事業による動物に対する重大な影響は回避・低減されているという記述には科学的な根拠が皆無であり、本事業者による環境影響評価に対する認識の低さを露呈するものである。

以上のことより、本計画地における風力発電施設の建設による鳥類種や生息環境への悪影響はいかなる対策によっても回避できる可能性はないと見てよく、その建設は複数の保護指定区域における生物多様性の低下をもたらすものでもあり、鳥類保全上の観点から風力発電施設の建設中止を強く要望する。

5. 各論 4：景観の保護

国立公園など自然公園は、自然景観の保護と利用、そして生物多様性保全を目的としている。想定区域の風車群は、支笏洞爺国立公園の支笏湖側 (美笛キャンプ場など湖畔

各地) から、また同国立公園のホロホロ山・徳舜別岳付近、あるいは羊蹄山から丸見えの状況になる。想定区域の風車群は、国立公園において重視されるべき目的、「自然景観の保護」に反するので、決して、想定区域の風車群建設は認められることではない。

6. 各論5：火山活動などによる災害に関して

想定区域は、重要な地形・地質に挙げた「ホロホロ・徳舜別火山群」と「支笏火山群」の間に位置するが、それらの火山群に該当しないことを示し、火山災害に遭遇しないことを暗に示している。しかし、古い時代の支笏湖カルデラの大噴火は、札幌まで及び、溶結凝灰岩を分布させた事実から、また、近い過去における有珠山噴火の火山灰が札幌周辺まで及んだことから、想定区域を除いて火山災害を考えることはできない。

想定区域の地質は、古い火山活動の結果である「プロピライト(変朽安山岩)」などからなり、火山活動の危惧とは別の観点、すなわち崩壊しやすい火山砕屑物としての特性により工事による露出・攪乱によって新たな土砂流出を引き起こすことが危惧される。